



事前に予約した家族40組が参加。親子で協力しながらスツールを作った。丸紅木材の講師がクイズ形式でSDGs、森

夏休みに親子で学ぶSDGs 間伐材でスツール作り

阪急阪神百貨店・丸紅木材 孝社長）の社員2人が、参加者はSDGsや森林保護について学んだ。自然環境についての学習は、SDGsをはじめ小学生にとっても身近で関心の高いテーマだ。十数年前とは違い、木を伐ることは環境保全のためにも良いことだという認識が子どもたちの間では既に形成されている。そのうえで、間伐材に実際に触れ、スツール作りを通して森林保護や整備の役割、モノづくりの楽しさ、モノを長く大事に使う大切さを伝えるよう企画した。

林の手入れ（間伐）、木の大きさなどを問いかけると、子どもは元気よく手を挙げて参加。また、大阪府千早赤阪村産の松を使ったスツール作りにも懸命に取り組んだ。やすりを掛けるほど広がる松の香りも楽しんだ。

同イベントは、阪急阪神百貨店が取り組む、「HANKYUこどもカレッジ」の催しの一つ。HANKYUこどもカレッジはモノづくりなど好奇心を刺激する様々な体験型学習の場を設け、7月26日～8月8日の14日間で開催した。小中学生の夏休みの宿題である自由研究のきっかけとして活用する機会にもなっている。

阪急阪神百貨店では、エイチ・ツー・オーリテイリング（同、荒木直也社長）グループのサステナビリティー経営方針に基づき、「地域」「子ども」「環境」の3つを重点テーマに、取り組みを進めている。エイチ・ツー・オーリテイリングは2021年に大阪府と包括連携協定を締結し、豊かな地域の自然を守り、引き継ぐことを目的に「大阪森の循環推進プロジェクト」を開始した。最近では23年4月、阪急うめだ本店8階に大阪府産松の間伐材を使用した新売り場「GREEN AGE（グリーンエイジ）」がオープンしている。